

群馬県吾妻郡六合村

入山世立における祝言のあいさつ

篠木 れい子

○はじめに

1. 対象地の地理的環境：六合村は群馬県の西北部に位置し、東は中之条町、西は草津町、南は吾妻町および長野原町に接し、北は長野県下高井郡山の町に接している自然の郷である。六合村の中でも、調査地入山世立は眼下に雲がたなびくほどの高い山の斜面にある集落で、国道292号線から北東へ約4.5Km入ったところである。
 2. 対象地の社会的経済的環境：まとまりのある農業集落である。最近では近隣の町への通勤も多い。
 3. 生業：主な産業は農業であるが、専業はごくわずかであり、若者の多くは近隣の町へ通勤している。かつては曲物や木炭生産が主な産業であったが、現在ではきわだった産業はない。
 4. 交通：南に隣接する長野原町と六合村花敷を結ぶJRバスが一日に4往復ほど走っている。その花敷から徒歩で約20分ほど山道を登ったところに入山世立がある。最近では道路が整備され、交通手段としてはもっぱら自家用車が使われている。
 5. 人口：1990年10月現在、六合村の人口は2238人、世帯数622世帯である。入山世立の人口は約100人、世帯数は約40世帯である。
 6. 調査年月日：1990年11月9日
午後2時～午後3時40分
 7. 方言話者：山本武男 男 明治44年 8月生(79歳)
山本直義 男 明治44年 9月生(79歳)
その他70歳台の女性数名と60歳台の男性に補い調査を行った。
 8. 調査者、調査場所：篠木れい子、入山世立の公民館
 9. 調査方法：質問法によった。アンケート法はとらなかった。
- 備考 話者が実際に体験、経験した祝言のあいさつについて調査した。昔ながらの祝言は約20年前まで行なわれていたが、その後は、結婚式場で行なわれる今様の結婚式のみとなり、祝言のあいさつも地域的な特色は失われ、本に書いてあるようなことばになっている、という。

I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人(新婦の父親)に向かって、どのようなあいさつをしますか。

○キョーワ タイゼーノ オキヤクオ ヒキツレテ ヨメゴノ ムケーニ サンジヤンシタ。ドーカ ナニカト ゴザッソクニシテ オケーシナスットクレ。ヨメノ ミヤダガ アルベキダガ ササイナガラ コレ ヒ下ツ メデタク オサメトクレ。今日は、大勢の、お客を、引き連れて、嫁ごの、迎えに、参じやんした。どうか、なにかと、ご早速にして、お帰しなすっておくれ。嫁(へ)の、土産が、あるべきだが、ささいながら、これ、ひとつ、めでたく、納めておくれ。(老男→老男、試演) <古> <上品> <かしこまり> <上待遇> <稀>

注1 結納はタルイレ(樽入れ)という。

注2 「どうぞ何もお構いなくお帰し下さい」という意味。

備考 結婚式当日、シンキヤク(仲人と新郎と新郎の親類者)が、新婦の家に嫁を迎えに行き、そこで結納品が授受されるのが一般的だった。結納の授受の後、新婦側の親族・親類の人々と迎えに出掛けた新郎側の人々とて宴会が繰り広げられた。その後、夕方近くなってから新郎の家で祝言が執り行なわれた。

2. その家の主人(新婦の父親)は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

○ソリヤー アリガトーガンス。それは、ありがとうがんす。注 (老男→老男、試演) <古> <上品> <かしこまり> <上待遇>

注 ガンスは敬意を表す助動詞。

備考 お礼の言葉の後に、その場に集まっている親類の人々に、結納品を披露する次のようなことばが続くのが一般的である。

○シュンセキノミナサマ ムコサンノホーカラ エライ タダイナルゴッツォオ シテイェタカラ ミンチニ ゴヒローシマス。親戚の皆様、婿さんの方から、偉い、多大なる、御馳走を、して得たから、みんなに、ご披露します。(老男→親類の人々、試演) <古> <上品> <かしこまり> <上待遇>

注1 食べ物の御馳走もいただき物もゴッツォオという。

注2 イェルは「もらう」の意。ここでは補助動詞として用いられている。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

○コナッチョノツコモ イェー ヨメ モラウッチューガ オメデトー
ガンス。あなたのところも、良い、嫁、もらうというが、おめでとう
がんです。（近所の老男→嫁をもらう家の人、試演） <高中年層>
<上待遇>

注 敬意を含む対称の代名詞コンターの複数形。

2. 嫁をもらう家の人へは、どのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○マー ヨカッタ。ミンナ マー タノンマス。まあ、良かった。みんな、まあ、頼みます。（老男→近所の人、試演） <高中年層> <上待遇>

III. 嫁に出すことに決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことに決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○コナッチョーノツコノ ムスメッコン イェーバニ ヨメ エッテ
ヨカッタムシ。あななのところの、娘さん、良い場に、嫁、行って、
良かったむし。^{注2}（近所の人→嫁に出す家の人、試演） <高中年層>
<上待遇>

注1 「良い所(家)に」の意。

注2 ムシは敬意を含む助詞。時にムシエとも発音される。

2. 嫁に出す家の人へは、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○オラガ アマッコガ ～ノツコエ セワンデルッチューガ ナンブ
ンミン マー タノンマス。おれの、娘っこが、～のところへ、世話に
なるというが、なにぶんにも、まあ、頼みます。（老男→近所の人、
試演） <高中年層> <上待遇>

IV. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは(親戚以外)、どのようなあいさつをしますか。

1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

○キョーワ 下ーモ ゴシユーギデ オメデトーガンス。ゴデーネーニ
ゴツツォデガンス。今日は、どうも、ご祝儀で、おめでとうがんです。
ご丁寧に、御馳走でがんです。(老男→老男、試演) <高中年層>
<上品> <かしこまり> <上待遇>

○コンチャ。キョーワ ヨカッタムシ。イエーヨメ モラッテ オメデ
トーガンス。マー ゴツツォニナリマス。こんにちは。今日は、良かった
むし。良い嫁、もらって、おめでとうがんです。まあ、御馳走になります。
(老男→老男、試演) <高中年層> <親> <上待遇>

1-2. 父親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○オソレーエリマス。ナンデン ネーカラ アルムンデ ターント クッ
テ ハラ ヘラサネーデ ユーックリ アソンデイエテ アチャー
タアンマス。恐れ入ります。なんでも、無いから^{注1}、ある物で、たと、
食って、腹、減らさないで、ゆっくり、遊んで得て、あちや^{注2}、頼みま
す。(老男→老男、試演) <古> <かしこまり> <上待遇>
注1 「何にも無いから」の意。
注2 アチャ(一)は「それでは」の意を表す間投詞。

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

2-2. 父親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

昔の結婚式及び披露宴には、新婦の両親は出席しなかったので、2. 2-2.
の項のあいさつは無い。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑^{注1}が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑は
どのようなあいさつをしますか。

○コラー オラガ ヨメゴダカラ タアンマス。これは、おれの嫁御だ
から、頼みます。(老女→近所の人、試演) <高中年層> <上待
遇>

○(仲人の名前)オンジーノ セワデ コッチー キテ セワンナルカラ

タ²アンマス。～おんじいの、世話で、こっちに、来て、世話になるから、頼みます。（老女→近所の人、試演）〈高中年層〉〈かしこまり〉〈上待遇〉

注1 姑はシュートバーサンという。

注2 オンジーは既婚の男性を呼ぶ場合に用いられる呼称。

2. そのあいさつに応じて、近所の人はどうなあいさつをしますか。

○オメデト²ーガンス。ヨカッタン²。おめでとうがंस。良かったね。

（老女→老女、試演）〈高中年層〉〈上待遇〉

注 ンは多少敬意を含んだ親しみの表現。

VI. 嫁を迎えた家の人へのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

○センジツワ タイヘン オゴツツォニナリマシタ。先日は、たいへん、お御馳走になりました。（中年女→老男、試演）〈高中年層〉〈上品〉〈かしこまり〉〈上待遇〉〈稀〉

2. 父親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○イワッテイエテ アリガトガンシタ。祝って得て、ありがとうがंसした。（老男→中年女、試演）〈高中年層〉〈上待遇〉

VI. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

○コナイダワ ドーモ エライ オーゴトシテイエテ ゴクローサンデガンシタ。この間は、どうも、えらい、大事して得て、ご苦労さまでがंसした。（老男→老男、試演）〈高中年層〉〈かしこまり〉〈上待遇〉

2. 仲人は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○コナチョー マー ヨメ デージニ シテクダーレ。あなた、まあ、嫁、大事にして下され。（老男→老男、試演）〈高中年層〉〈上待遇〉

備考 仲人はお礼の品とお金をもらうと、自分の親類を集めて皆に御馳走するのが習わしであった。それをトッビノハネ(とんびの羽根)という。トッビノハネがあるので、三回仲人をするとビッポー(貧乏)になると言われた。

Ⅵ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

○ソエジャ マー エッテキマス。それでは、まあ、行ってきます。

(若女→老男、試演) <全年層> <上待遇>

2. 両親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○アー エッテキサッシャー。ゴツツォニナッテ ゴザレ。ああ、行ってきさっしええ。^{注1}御馳走になって、^{注2}ござれ。(老男→若嫁、試演)

<高中年層> <上待遇>

注1 サッシャーは敬意を表す助動詞。四段動詞の場合はシャーとなる。

注2 ゴザレは敬意を表す。本動詞にも補助動詞にも用いられる。もっぱらその命令形のみが使用されている。

Ⅸ. その他の場面でのあいさつ

1. 嫁渡しのあいさつ

○ブチョーホーナガラ ヨメー オクッテサンジヤンシタ。ナニカトゴサツソクニシテ オケーシナスツクレ。不調法ながら、嫁を、送って参じやんした。なにかと、ご早速にして お帰しなすっておくれ。(仲人→新郎の両親、試演) <古> <上品> <かしこまり> <上待遇> <稀>

○エマ ヨメー イエテ マイリマシタ。今、嫁を、得て、参りました。(仲人→新郎の両親、試演) <古> <上待遇>

1-2. それに対するあいさつ

○ウケトリマス。ゴクローデガ⁽¹⁾ンシタ。受け取ります。ご苦勞でがんした。(新郎の父親→仲人、試演) <古> <かしこまり> <上待遇> <稀>

2. 嫁ぐ時の新婦のあいさつ

○オト^ーサン オカ^ーサン オセ^ワン^テリマシタ。お父さん、お母さん、
御世話になりました。（新婦→自分の両親、試演） <全年層>
<かしこまり> <上待遇>

2-2. それに対するあいさつ

○ア^チャ エ^ッテ セ^ワンナラッシャー。あちや、行って、世話に、な
らっしええ。（新婦の父親→嫁に行く娘、試演） <古> <上待遇>
>

(群馬県立女子大学)